

ねやがわし 農業委員会だより

第 7 6 号

— 発 行 —

寝屋川市農業委員会
(事務局)

寝屋川市本町 1 番 1 号

TEL 072(824)1181 内線 2332

FAX 072(825)2638

メールアドレス: noui@city.neyagawa.osaka.jp



大阪府農業会議の職員も同行した平成27年度農地パトロール(南地区)

主 な 内 容

- ◎ 農地パトロールを実施、選挙人名簿に関するお知らせ …… (2)
- ◎ 野菜の見本市を初開催 …… (3)
- ◎ 第34回農業まつり開催報告 …… (4)
- ◎ 農産物品評会の開催、下限面積のお知らせ …… (5)
- ◎ 北河内地区都市農業啓発事業、農地の賃借料情報 …… (6)
- ◎ カレーに乗せてはいけない福神漬けの紹介 …… (7)
- ◎ 元気ファーマー訪問記⑫「高倉支部・谷田博延さん」 …… (8)



都 市 農 地 は 大 切 な 地 域 の オ ア シ ス

「ねやがわし農業委員会だより」は再生紙を使用しています。

近隣住民や農地への迷惑を防止 農地の荒廃には改善指導徹底へ

雑草が繁茂する生産緑地（右）



指導に応じ除草を行う（左）

雑草が繁茂していた生産緑地の 適正管理を指導

今年度の農地パト

ロールは、市内を旧村単位の5ブロックに区分し、その区域内の農業委員によるパトロー

農業委員会では、10～11月にかけて市内農地の一斉パトロールを実施し、無断転用や遊休農地約75戸を確認しました。
今後、無断転用等の所有者に対しては、改善されるまでは正指導を継続して行います。

雑草繁茂による農地の荒廃は、病害虫等の発生により、近隣の住民や農地へも影響が生じることから、改善されるまで徹底した指導を行ってまいります。

平成27年度

農地パトロールを実施

無断転用等75戸を確認 今後は正指導へ

農地パトロールで発見した生産緑地の遊休農地化については、所有者に対し地元委員及び事務局による電話連絡や自宅訪問を実施しています。農業委員会としては、耕作の継続を指導することが前提でありつつも、所有者の高齢化や、様々な事情で耕作できない場合には、近隣の迷惑防止のためにも除草を指導しております。所有者の方は、自分で除草できない場合でも、家族にお願いするなど、対応をお願いいたします。

平成 27 年度農地パトロール結果集計表

		市街化 区域	市街化 調整区域	合 計
無断転用	件(筆)数	1(1)	0(0)	1(1)
	面積(㎡)	1,456	0	1,456
遊休農地	件(筆)数	3(3)	6(8)	9(11)
	面積(㎡)	1,456	4,600	6,056

選挙人名簿の取り扱いに 関するお知らせ

毎年12月に、各支部長を通じて配布させていただいております「農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」の提出について、農業委員会等に関する法律の改正に伴い、農業委員の選挙制度が廃止されることから不要となりましたのでお知らせいたします。

Q 農業委員はこれからどうやって選ぶの？

A 選挙ではなく、市長が議会の同意を得て任命する任命制になります。ただし、現在の農業委員の任期は平成29年7月19日までそのまます。

Q 補欠委員はどうやって選ぶの？

A 補欠委員については、平成27年1月1日時点の選挙人名簿から選出します。新たに名簿調整はいたしません。

初開催！

農業者と商業者が交流・商談する「野菜の見本市」

平成27年8月7日に開催した「野菜の見本市」。市内で飲食店を営む商業者に、寝屋川で採れた新鮮でおいしい野菜を、見る＆試食してもらうことで、地場産野菜の販路拡大を図るべく実施されました。農業者側は「寝屋川市農業研究クラブ」がたくさんの野菜を用意し、会場は色とりどりの野菜と多くの人でにぎわいました。

意外と出会う機会のなかった農業者と商業者

近年の健康志向ブームから注目される「地場産野菜」。自分の店でも使いたいけれど、どこに買いにいけばよいのか…。そんな商業者の方々に、ぜひ見て、食べてほしいと、「寝屋川市農業研究クラブ」のみなさんが、たくさんさんの野菜を持って集まりました。中には、すぐに傷んでしまうので、市場には出回らない「オクラの花」の試食も。農家さんのいつもの食べ方「花びらに醤油とわさびをつけて」いざ試食。見た目も華やか、おしゃれなイタリアンにぴったりの、ということと、さつそう譲ってほしいと商談開始！ところが、鮮度が一日も持たないのでお店に出すには難しいと、農家側からお断りが。残念です。



オクラの花の試食（左）



オクラの花（上）



たくさんの野菜で華やかな会場
（左・下）

朝市で購入できる身近な存在

気に入った野菜はどこで購入できるのか。商業者からの問い合わせ用に、会場では、各所の朝市情報や、野菜の旬などをチラシで配布。見本市のあとは、商業者から農業者に直接問い合わせがあったケースもありました。

（朝市情報は、寝屋川市産業振興室ホームページにも掲載しています）



市長も見学に。今年は特別に大学生も参加。（上）



今回が初開催でしたが、好評につき、来年度も実施する予定です。来年度は、より多くの商業者の方の参加をお待ちしています。

第34回寝屋川市農業まつり

時折小雨がちらつく天候にもかかわらず1万2千人が来場



第34回寝屋川市農業まつりが、11月15日(日)に打上川治水緑地でエコ・フェスタと同時に開催されました。

前日に降った雨で足元も悪く、時折小雨がちらつく天候にもかかわらず、1万2千人の方が来場されました。

今年も米粉パンやポン菓子、おにぎり、もちの即売のほか、生活改善クラブ連合会によるかやくご飯やぜんざい、味噌等の加工品販売や農業研究クラブによる地場産野菜の販売も行われました。

また、JA北河内の米すくい取りやJA九個荘のたまご・果物販売、北部共済の模擬店のほか、友好都市・すさみ町の特産物や寝屋川菊花会の菊、郷土銘菓開発協議会の和菓子、ベンチャービジネスコンテストでグランプリを受賞した福神漬の販売など、今年も盛りだくさんでした。

午前10時から、11月5日に開催された「農産物品評会」の各入賞者に対し表彰式が行われ、午後3時の閉会までにぎわいました。



平成27年度

寝屋川市農産物品評会

平成27年度寝屋川市農産物品評会が、11月5日（木）に市立中央公民館（総合センター）において開催され、88点の応募がありました。

審査の結果、大阪府知事賞に中村治彦さん（美井元町）のダイコン、寝屋川市長賞に滝本拓馬さん（上神田二丁目）のキャベツが選ばれるなど、13点の作品が入賞されました。

大阪府知事賞「ダイコン」

中村 治彦（美井元町）

寝屋川市長賞「キャベツ」

滝本 拓馬（上神田二丁目）

寝屋川市農業委員会会長賞

「サトイモ」

小野 信次（木屋町）

寝屋川市議会議長賞

「キウイ」

瀧口 満（河北中町）

寝屋川市農政推進協議会会長賞

「玄米（ヒノヒカリ）」

奥野 清一（田井町）

北河内農業協同組合組合長賞

「柿」

堀井 英明（寝屋一丁目）

九個荘農業協同組合組合長賞

「ニンジン」

中東 廣司（中神田町）

大阪府北部農業共済組合組合長賞

「サツマイモ」

辻本 通（寝屋一丁目）

北河内地区農業委員会連合会会長賞

「ハクサイ」

土井 久治（寝屋一丁目）

北河内地区農業研究クラブ

「ホウレンソウ」

畠中 貞治（寝屋一丁目）

努力賞 「しょうが」

倉内 勇（高宮一丁目）

努力賞 「落花生」

井上 宗一（打上元町）

努力賞 「玄米（ヒノヒカリ）」

倉内 喜由（高宮一丁目）

《敬称略》

ご出品いただきました皆様方には厚くお礼申し上げます。



農地取得時の下限面積を協議 現行どおり 20 ㌖で決定

本市で農地を取得する場合には、現在耕作している農地（小作により借り受けて耕作している農地を含む）と新たに取得したい農地の合算で、20 ㌖（2,000 ㎡）に満たなければ、農業委員会では耕作目的での農地取得の許可をしていません。

この 20 ㌖の下限面積が適正であるのか、8 月に農政企画委員会を開催して協議し、8 月の農業委員会総会において、現行どおりとすることを決定いたしました。

寝屋川ではあまり栽培されていませんが、実は大阪府のぶどうの収穫量は全国 7 位。栽培面積（デラウェア）は全国第 3 位と、ぶどう生産が盛んです。ぶどう生産面積は羽曳野市、柏原市などが多く、交野市は府内で 5 番目。講演会では、大阪府職員の山口英夫氏による、ぶどうの栽培方法や、鳥獣からぶどうを守るユニークな対策など、ユーモアを交えた楽しい説明があり、会場内には大きな笑いが起こりつつも、めずらしい栽培方法に、みなさん熱心に聞き入っていました。

大阪府のぶどうの収穫量は 全国第 7 位

第 35 回北河内地区都市農業啓発事業（北河内地区農業委員会連合会と大阪府農業会議の共催）が 8 月 4 日（火）に交野市において開催され、北河内地区の消費者と農業者が交流を行いました。当日は、「府内ぶどう生産状況と交野市のぶどうについて」の講演が行われたほか、神宮寺地区でぶどう農園を視察しました。

第 35 回北河内地区都市農業啓発事業 神宮寺地区ぶどう農園を視察 消費者と農業者が交野市で交流



講演会の様子（上）

寝屋川市農地の賃借料情報（10a あたり）

農地法第 52 条の規定に基づき賃貸借された実勢の賃借料を集計（平成 26 年 1 月から 12 月までの締結）しましたので情報提供します。賃借料を決定する際の参考として御活用ください。

なお、この「賃借料情報」は、実勢の集計値であり、拘束力はありませんので、実際の契約の際には、貸し手と借り手の両者でよく協議したうえで締結してください。

地域	平均額	最高額	最低額	データ数
市内 全域	22,017 円	35,361 円	10,588 円	29 筆

賃借（旧小作）関係にある農地について

- ① 賃借（旧小作）関係にある農地を合意解約する場合は、解約した日の翌日から起算して 30 日以内に農業委員会へ通知をお願いします。
- ② 賃借人（旧小作人）が死亡等の理由により変更になった場合は、農業委員会への届出を忘れずに行ってください。（相続が重なりと手続きが煩雑になります。）

デラウェアがたくさん実る農園を見学
ひとつひとつ丁寧に紙を被せられたデラウェア。農園内には甘い匂いが漂います。ぶどう棚の高さは、作業しやすいように農家さんの身長にあわせて造られているそう。今回見学した農園は少し低めで、みなさん腰をかがめ、汗を拭きながら、専門家の説明に耳を傾けていました。



専門家による説明（上）

ベンチャービジネスコンテスト・初代グランプリ受賞作品

「カレーに乗せてはいけない福神漬け」 ついに完成！

平成26年度のベンチャービジネスコンテストで初代グランプリを獲得した「福神漬け」。寝屋川産の野菜を使用し、おいしく仕上がりました。



摂南大学の大学生が受賞（上）

平成26年度より始まった「ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト」は、市内の産業振興を推進することを目的に、「工業」「商業」「農業」「協働」の4部門に対する学生のビジネスプランを募集し、各部門の部門賞と、さらにそのからグランプリを発表しています。

「カレーに乗せてはいけない」理由

今回、農業部門の部門賞とグランプリを獲得した「福神漬け」。「カレーにのせてはいけない」その理由は、カレーのお供として有名な福神漬けを、食卓の主役を張れるほどおいしく仕上げる！という意気込みから。寝屋川市の郷土料理を伝承しつつ「寝屋川市生活改善クラブ連合会」の秘伝レシピを参考に、寝屋川産の新鮮でおいしい野菜を使用することで寝屋川市の特産品にしたい、という願いが込められたこの福神漬け。大学生の熱い想いに感銘を受けた市内食品加工会社と農家の協力、市のサポートを得て、約1年かけ、ついに完成しました。

農業まつりでも好評で約300袋完売

11月15日（日）に開催された農業まつりで完成品を販売。会場では、事前に新聞などで販売情報を知った市民が買い求める姿も。1袋130グラム入り、200円で販売されましたが、約300袋が完売しました。



農業まつりでの販売（上）

完成品の醤油味（下）



市長への表敬訪問（上）



たくさんの方々のご協力により完成した今回の福神漬け。「産・学・公」が一体となっており、商品としても大変良いものができたと関係者は口を揃えます。寝屋川産の野菜を使用していることから、次に旬の野菜が手に入るまで、生産はいったんストップ。今後の詳しい販売情報は未定ですが、近くのスーパーで見かけた際には、ぜひ手に取ってみてください。

第 12 回 元気ファーマー訪問記

第 12 回目の「元気ファーマー訪問記」は、谷田博延さん（高倉支部）を訪問しました。
谷田さんは、朝市への出荷など、地場産農産物の販売を精力的に行うほか、よりよい農産物を作るための労を惜しまず、日々「学び」を続ける、元気ファーマーです。



高倉まつりで野菜を販売する
谷田博延さん（67）

谷田さんは寝屋川市役所で要職を務められたのち、定年を機に、農業に本格的に取り組むようになりました。普段は大きなバイクで伊勢まで行ってしまうような行動派で、一度決めたことはとことんやってしまう性格。

そんな谷田さんは、農業に対しても熱い想いを持ち、農業のプロとして、もっと良いものを作りたいたと、一念発起。「なんとなく、経験値で作る」ではなく、「根拠をもって、より良い農産物を作る」。

このためには、もっと深く学ぶ必要があると、農協のアグリスクールに通うことを決めました。スクールでは土づくりなど様々な講義を受けましたが、谷田さんの、「もっと学びたい」という気持ちはより大きくなり、市の農業講演会をはじめ、学びの機会があれば積極的に参加。「分からなければ分かるまで聞く」。若くして父を亡くし、右も左も分からないまま農業を継承した谷田さんの、昔から変わらないスタイルです。



お客さんとの掛け合いも楽しみのひとつ

退職してすぐに、友人から、「朝市に出荷してほしい」と依頼が。熱心に頼まれたので、最初は半分義理のつもりで出荷しました。ところが、自分が出荷したものが、どんどん売れていく。一つ売れても 100 円。たかが 100 円、されど 100 円。この時、谷田さんは自分の作ったものが売れること、誰かに喜ばれ、認められることの喜びや楽しさを、心から感じました。

たかが 100 円、されど 100 円



毎日過ごす農小屋には、自作の農業マニュアルが

おいしくて安全なものを

せっかく作るのだから、おいしくて安全なものを。朝市に出荷されてから、よりその想いが強くなり、化学肥料や農薬をなるべく使用しない「エコ農産物」の栽培に注力されています。農業に頼らないということは、その分、虫との闘いや手間が増えるということ。それでも、労を惜しまず、日々農業にいそむ姿は、まさに「元気ファーマー」。出来高を増やすための研究や作ったことのない品目の栽培など、谷田さんのやりたいことは尽きません。